

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3206012号
(U3206012)

(45) 発行日 平成28年8月25日(2016.8.25)

(24) 登録日 平成28年8月3日(2016.8.3)

(51) Int.Cl.

A 4 5 C 7/02 (2006.01)

F 1 A 4 5 C 7/02 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号	実願2016-2789 (U2016-2789)	(73) 実用新案権者	504134531
(22) 出願日	平成28年6月15日 (2016.6.15)		株式会社シフレ
			埼玉県越谷市西方2605
		(74) 代理人	100071238
			弁理士 加藤 恒久
		(74) 代理人	100139044
			弁理士 笹野 拓馬
		(72) 考案者	大島 直幸
			埼玉県越谷市西方2605 株式会社シフレ内

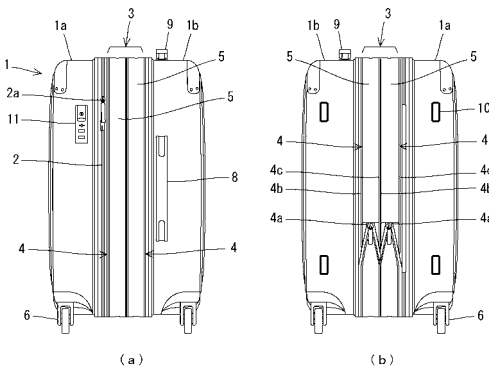
(54) 【考案の名称】 キャリーケース

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 荷物の量に応じて収容スペースを拡大・縮小させることができるキャリーケースを提供する。

【解決手段】 蓋側シェル1 a及び身側シェル1 bを有するキャリーケース1であって、蓋側シェル1 aを開閉するのに使用される開閉機構と、身側シェル1 bとの間に、拡張可能に構成された複数のジップ4及び複数のまち5からなる拡張部3を有する。拡張部3を構成する複数のまち5の各々のまち幅が互いに等しい場合もあれば、異なる場合もある。

【選択図】 図4



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

蓋側シェル及び身側シェルを備えるキャリーケースであって、

上記蓋側シェルを開閉するのに使用される開閉機構と、上記身側シェルとの間に、拡張可能に構成された複数のジッパ及び複数のまちからなる拡張部を有することを特徴とするキャリーケース。

【請求項 2】

上記拡張部を構成する複数のまちの各々のまち幅が互いに等しいことを特徴とする請求項 1 に記載のキャリーケース。

【請求項 3】

上記拡張部を構成する複数のまちの各々のまち幅が互いに異なることを特徴とする請求項 1 に記載のキャリーケース。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、キャリーケース（スーツケースを含む）に関し、詳しくは、例えば旅先で増える荷物の量に応じて収容スペースを段階的に拡大させることのできるキャリーケースに関する。

【背景技術】**【0002】**

キャリーケースは、概して、航空機内に持ち込むことができる寸法につくられていることが多いが、実際には、バス旅行や船旅などにも広く利用されている。

【0003】

特許文献 1 に示されるように、キャリーケースの 2 つのシェルの間に設けられた拡張部を拡大させることができるものは従来のキャリーケースにも存在する。しかし、例えば、旅の最初の目的地で増えた荷物の量に応じてキャリーケースの収容スペースを少しだけ拡大させることができ、旅の次の目的地で増えた荷物の量に応じてキャリーケースの収容スペースを更に少しだけ拡大させることができるものは従来品にはなかった。或いは、旅先などで徐々に荷物の量が減る場合に、段階的に収容スペースを縮小させることができるキャリーケースはなかった。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特開 2013 - 000236 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0005】**

使用者の旅の行程等に伴って徐々に増えたり減ったりする荷物の量に応じて、キャリーケースの収容スペースを段階的に拡大・縮小させることができるとよい。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

蓋側シェル及び身側シェルを備えるキャリーケースであって、蓋側シェルを開閉するのに使用される開閉機構と、身側シェルとの間に、拡張可能に構成された複数のジッパ及び複数のまちからなる拡張部を有することを特徴とする、キャリーケースを提供する。

【0007】

一実施例においては、拡張部を構成する複数のまちの各々のまち幅が互いに等しいことを特徴とする。

【0008】

他の実施例においては、拡張部を構成する複数のまちの各々のまち幅が互いに異なることを特徴とする。

10

20

30

40

50

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本考案の一実施例におけるキャリアケースを示す一側面図。

【図2】図1に示した一実施例におけるキャリアケースを示す他の側面図。

【図3】拡張部の1つのまちが拡張された状態を示す図。

【図4】拡張部の2つのまちが拡張された状態を示す図。

【図5】拡張部を構成するまちの一実施例を示す図。

【図6】一実施例におけるキャリアケースの斜視図。

【考案を実施するための形態】

【0010】

本考案のキャリアケースについて、添付の図を参照しつつ詳細に説明する。

【0011】

図1及び図2に示されるように、本考案のキャリアケース1は、蓋側シェル1aと身側シェル1bを備え、更には、キャリアケース1の蓋側シェル1aを開閉するための開閉機構2と、身側シェル1bとの間に、拡張部3を備えている。開閉機構2は、例えば、スライド式ファスナ2aからなる。図1及び図2は、ジッパ4が閉じられている状態を示している。

【0012】

図2に示される実施例において、拡張部3を構成するジッパ4のスライダ4aがスライド（摺動）操作されると、ジッパの要素が解除されることにより、まち幅の分だけ拡張部3が拡張し得る。

【0013】

図3は、並設された2つのまち5のうち1つが拡張された状態を示している。ジッパ4のスライダ4aがスライド操作され、要素4b、4cの噛み合わせが解除されると、1つのまち5が、まち幅に相当する長さだけ拡張されることにより、拡張部3が拡張し得る。図3(a)は、キャリアケース1の一側面を示している。図3(b)は、キャリアケース1の他の側面を示している。

【0014】

図4は、並設された2つのまち5の両方が拡張された状態を示している。各々のまち5に対応するジッパ4のスライダ4aがスライド操作され、ジッパ4の要素4b、4cの噛み合わせが解除されると、2つのまち5が、まち幅に相当する長さだけ拡張されることにより、拡張部3が拡張し得る。図4(a)は、キャリアケース1の一側面を示している。図4(b)は、キャリアケース1の他の側面を示している。

【0015】

拡張部3を構成する複数のまち5の各まちのまち幅は、互いに等しい場合（図4を参照）もあれば、互いに異なる場合（図示せず）もある。

【0016】

図5に示されるように、一実施例においては、キャリアケース1の拡張部3を構成するまち5は、蛇腹状の形状に形成される場合もある。

【0017】

一実施例においては、拡張部3は、擦れや衝突に強い耐摩耗性の高い素材から形成され得る。他の実施例においては、拡張部3は、アラミド繊維が混合された素材から形成され得る。

【0018】

図6は、蓋側シェル1aと身側シェル1bを備えるキャリアケース1を示す。キャリアケース1を開閉するための開閉機構2と、身側シェル1bとの間に、拡張部3を構成する複数のジッパ4が並設されている。一実施例においては、キャリアケース1を牽引する際に使用されるキャリアハンドル7、ハンドル8、9、及び開閉機構2をロックするためのジッパロック11が、該キャリアケース1に設けられている。

【0019】

10

20

30

40

50

本考案のキャリーケース 1 においては、拡張部 3 を構成する複数のまち 5 のうちのいくつかを使用者が拡張させることにより、該キャリーケース 1 の収容スペースを拡大させることができる。すなわち、本考案のキャリーケース 1 は、旅先で予想外に荷物が増えた場合などにおいても、増えた荷物の量に応じて段階的にキャリーケース 1 の収容スペースを拡大させることができるという利点がある。

【符号の説明】

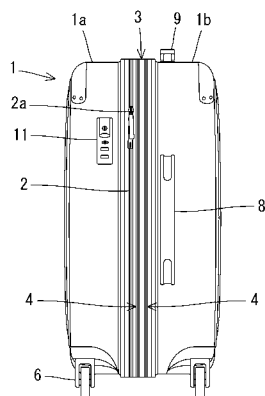
【 0 0 2 0 】

- 1 ... キャリーケース
- 1 a ... 蓋側シェル
- 1 b ... 身側シェル
- 2 ... 開閉機構
- 2 a ... スライド式ファスナ
- 3 ... 拡張部
- 4 ... ジップ
- 4 a ... (ジップ 4 の) スライダー
- 4 b ... (ジップ 4 の) エレメント
- 4 c ... (ジップ 4 の) エレメント
- 5 ... まち
- 6 ... キャスタ
- 7 ... キャリーハンドル
- 8 ... ハンドル
- 9 ... ハンドル
- 1 0 ... 底足
- 1 1 ... ジップロック

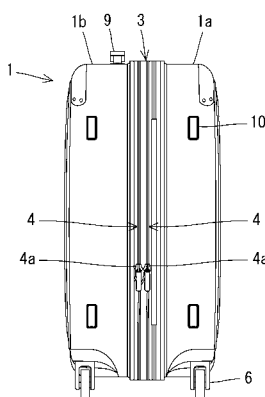
10

20

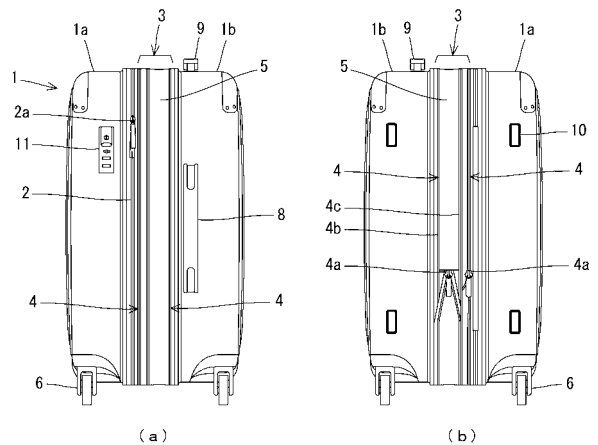
【 図 1 】



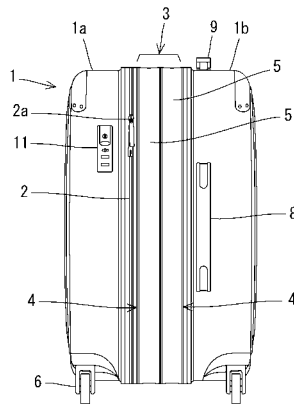
【 図 2 】



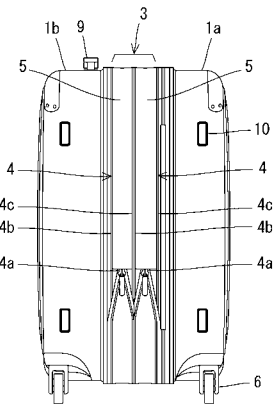
【 図 3 】



【図 4】

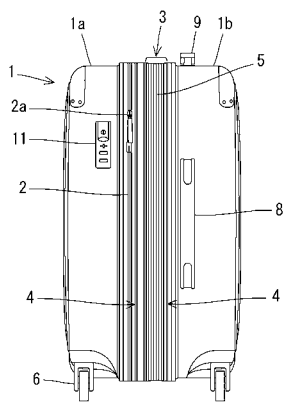


(a)



(b)

【図 5】



【図 6】

